

(3) 社会福祉施設の地域展開

県内の社会福祉法人等が、商店街の空店舗を活用して、買い物客や地元住民に身近なデイサービス事業や住民交流サロン、住民相談窓口等を開設しつつあります。

ここでは、社会福祉施設が持っている豊富な人材や専門的なノウハウ、設備等の社会資源を活用して地域に身近な事業を展開している事例を紹介します。

茶飲み感覚の憩いの場「肥後高瀬もやい処」 ～社会福祉法人天恵会(天水町)～

単なる要介護者向けのデイサービスではなく、誰でも自由に立ち寄り、交流するスペースとしての地域密着型ミニデイサービスを空店舗を活用して実施し、住み慣れた地域、通い慣れた地域における生活の延長線上としての憩いの場を提供しています。

また、商店街にあるため、買い物や訪れた人との交流など、従来のデイサービスの枠にとらわれないサービスを提供。また、文化サークルなど市民活動の場としても活用するなど商店街活性化にも貢献しています。

畳敷きスペースなど家庭的で落ち着いた雰囲気を持ち、茶の間や縁がわ感覚で利用できます。

【サービスの内容】

- ① 送迎、入浴、昼食、機能回復訓練、看護師による健康チェック。
- ② 商店街周辺、菊池川への散歩や趣味活動、地域との共同によるイベントの開催など。

利用料 → 介護保険の通所介護の利用料による(799円～1,233円)

利用時間 → デイサービス事業所としては9:30～16:00(月～土曜日)までだが、
8:30～18:00まで開放

スタッフ → 看護師2名、相談員1名、調理師1名の4名



【呉服屋を改装した商店街にあるサロン】



商店街にある住民相談窓口「かわしり倶楽部」 ～社会福祉法人寿量会(熊本市)～

高齢者の介護相談や福祉サービスの情報を無料で提供する地域の交流サロンを、川尻商店街の空店舗を活用して開設しています。



【商店街にあるサロン】

住み慣れた地域で、高齢者が自立できるような生活環境を整備し、在宅介護を後押しするのが狙いで、高齢者のための地域支援策として期待されています。

サロンの入り口や室内は段差のないバリアフリーに改造し、高齢者の作品を展示するスペースを設け、地域の人達が気軽に立ち寄れる交流サロンとなっています。

他にも、家族を対象とした介護実習、高齢者向け教養講座も実施しています。

【サービスの内容】

利用時間→月・水・金曜日(13:30～16:30)



福祉特区を活用した「豊川デイサービスセンター」 ～社会福祉法人水光会(松橋町)～

県・宇城1市9町の「福祉コミュニティ特区」事業に沿い、高齢者通所介護施設に知的障害者も障害児も受け入れる小規模の「豊川デイサービスセンター」を、空き家状態となった民家を活用して、開設しています。

介護福祉士や社会福祉士、看護師の職員3人を専従させ、昼食や機能回復訓練、レクリエーション、送迎サービスなどを実施しています。

施設は、約644平方メートルある敷地内の木造平屋66平方メートルで、元は1人暮らしの高齢者向けに建築された住家で、広い庭があり、室内は段差をなくしたバリアフリー化が施されています。

【スタッフの声】

「念願だった地域密着型の通所施設ができました。お年寄りや障害者が家でくつろぐ雰囲気、利用していただけたいと思います。」

福祉コミュニティ特区とは

宇土市、宇土郡、下益城郡の1市9町において、「指定通所介護事業所等における知的障害者及び障害児の受入事業」、「NPOによるボランティア輸送としての有償運送における使用車両の拡大事業」が可能となる施策。

「普通の市民」として広くアピール ～社会福祉法人ライン工房(熊本県)～

ライン工房では、どんなに重い障害があっても、自分らしく地域で暮らせる社会を創ることを目標に、通所する仲間をとおして、施設の運物をとおして、事業をとおして障害を持つ方が、市民として地域で自分らしく暮らすことを広く市民のみんなにアピールしています。

【活動の内容】

○ライン工房(就労支援)

パンやクッキー等の食品加工、印刷物の入力や情報誌の発行、喫茶店や売店の運営など、働くことをとおして生きる力を培います。

また、福祉講座や体験講座等を実施し、車椅子からの目線、支援の視点等を子ども達や地域の方々にアピールしています。

○ゆう工房(社会参加支援)

入浴やリハビリ、創作や昼食等のデイサービス等を実施しながら、仲間を作り、自分の世界を広げます。

○ライフ(自立支援)

地域で自分らしく生活するために必要な支援(家事援助、身体介助)を行います。

銀行の利用、買い物、掃除など、地域での暮らしをスタッフと共に体験しながら、自立とは何かを地域とともに考えていきます。

○青空(生活支援)

日々の生活相談から一人暮らしのノウハウ、家賃改造、制度活用まで当事者の視点での総合的な生活支援を行っていきます。



県外の事例も紹介

施設がまちにやってきた ～社会福祉法人東北福祉会せんだんの社(仙台市)～

せんだんの社では、「通って(デイサービス)、泊まって(ショートステイ)、家にも来てくれて(ホームヘルプ)、いざとなったら住むことができる(グループホーム)」自立対応型のデイサービスを行うサテライトを展開しています。

【中山小学校区での展開】

① 街角サロンもうもう亭

高齢者、子ども、障害者、地域福祉、ボランティアなどの総合相談所、障害者の働く拠点(元焼肉屋の店舗をフリースペース化)

② よりみちの家

ショートステイの利用者の逆デイサービス(地域生活継続)

③ 中山2丁目の家

障害児の放課後ケア、レスパイトケア

④ ひまわりの家

特養(ユニットケア入居者)の逆デイサービス

⑤ 中山の家1

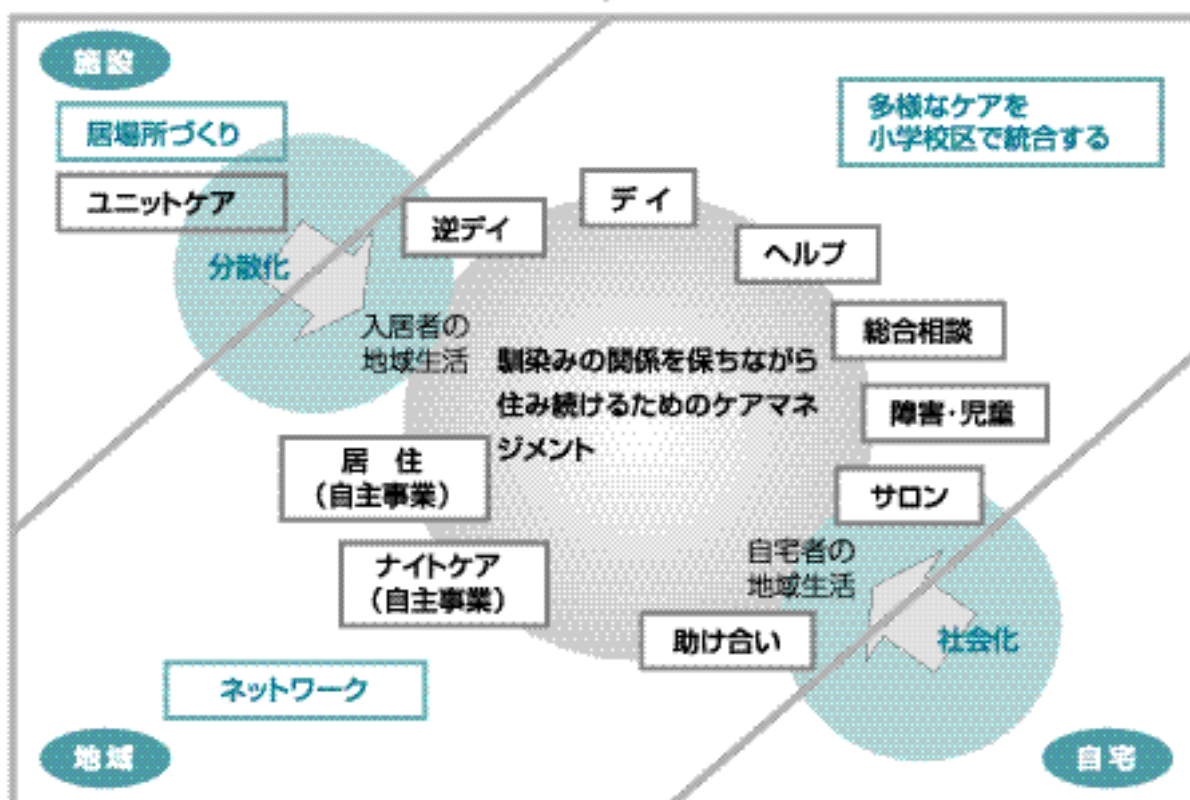
小規模多機能ホーム(デイサービス+お泊まり+ホームヘルプ)、元は逆デイサービス

⑥ 中山の家2

小規模多機能ホーム(デイサービス+お泊まり+居住+ホームヘルプ)

*逆デイとは:施設入所者が在宅生活にスムーズに移行できるよう、また、地域での生活を体験できるよう、地域の身近なデイサービスを利用すること

地域と「ともに」ケア



県外の事例も紹介

住み慣れた地域で自分らしく暮らす「アザレアンさなだ」

～社会福祉法人恵仁福祉協会(長野県真田町)～

身近な場所で、誰でも気軽に寄れる福祉の拠点高齢者総合福祉施設「アザレアンさなだ」は、自動車で6、7分の距離の3ヶ所の地域にグループホームをつくり、逆デイサービスと併せて、できるだけ住み慣れた地域で生活していただけるような地域分散型の取組みを行っています。

【グループホームを始めた動機】(スタッフの声)

「自分の入りたい施設作り」を目指し、生活の場としての施設介護に取り組んできたが、集団生活の中の画一的なケアやルールのある施設の中では自分らしさや元気に生き生きと生活する姿が見えてこなかった。

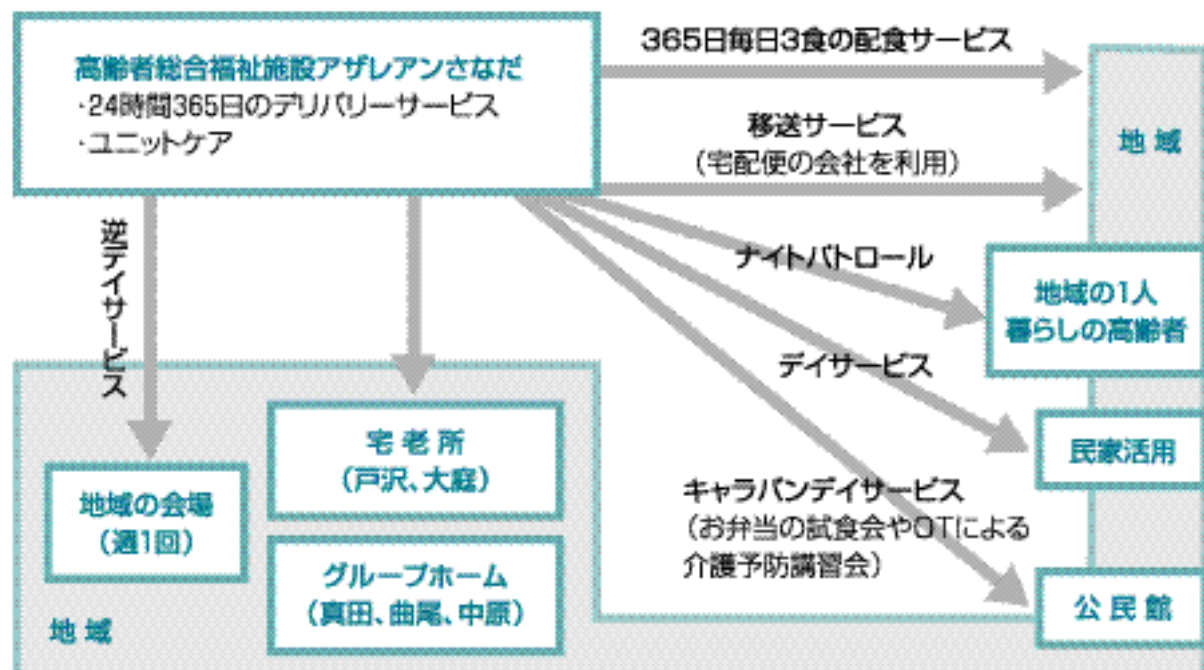
そこで、馴染みの環境や馴染みの関係を設定し「暮った生活を返す」という試みを施設の中で実施したところ「その人らしさ」の発見ができた。

そして、地域に出かける逆デイサービスを行って、さらに「その人らしさ・生きる力」の発見があり、その結果グループホームにつながっています。

【自分らしい生活のための工夫】

- ① 食器は瀬戸物で、食べたい食事が選べるバイキング
- ② 特別注文のメニュー
- ③ 幅広い食事の時間の設定
- ④ 昼間の入浴の他に夜間入浴で安眠につなげる
- ⑤ 排泄は随時交換で快適な生活
- ⑥ 制服から私服で、施設のない施設

「アザレアンさなだ」の地域分散型ケアシステム



県外の事例も紹介

地域移行への生活トレーニングシステム

～コロニー雲仙グループ地域サービスセンター(長崎県壱岐郡)～

コロニー雲仙グループでは、県央地域サービスセンターと県南地域サービスセンターを核として、地域移行への生活トレーニングシステムを確立し、障害のある人が、故郷やまちの中で安定した生活を営めるよう支援しています。

トレーニングシステム図

